

玉箒・鎌・天木香・棗を詠む歌

三八三〇番

玉箒たまばはき 刈り来鎌麻呂か こかままる むろの木とき 棗が本となつめ もと

かき掃かむためは

白鷺の木を啄ひて飛ぶを詠む歌

三八三一番

池神のいけがみ 力士舞かもりきじまひ 白鷺のしらさぎ 梓啄ひ持ちてほこく ま 飛と
び渡るらむわた

忌部首、数種の物を詠む歌一首

三八三二番

からたちのうばらか 茨刈り除けそ 倉建てむくらた 屎遠くまくそとほ
れ 櫛造る刀自くしづく とじ

境部王、数種の物を詠む歌一首

三八三三番

虎に乗りとら 古屋を越えてふるや こ 青淵にあをぶち 蛟竜捕り来むみつちと こ
剣 大刀もがつるぎたち